



写真 高瀬船復元模型（千葉県立関宿城博物館所蔵）

かわはく No.47

CONTENTS

平成25年度特別展案内「和船大図鑑」	2
スロープ展示案内「荒川と船の風景」サテライト展示	3
企画展開催報告「金魚」	4
企画展開催報告「地図からみえる世界」	5
かわはくGWまつり開催報告	6
コラム：「街角珍百景～ちょっと変わった県境～」	7
館長のつぶやき「ブータンの話」	7



平成25年度特別展案内

『和船大図鑑～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～』

会期：平成25年7月13日（土）～9月1日（日）

「船」と一言にいても、皆さんの頭の中のイメージは十人十色、様々な船が思い浮かんでいるのではないのでしょうか。このたびの特別展では、日本の河川で古くから活躍した「和船」に注目し、「大図鑑」の名の通り、様々な和船の姿と共に、造船技術や舟運にまつわる信仰などを通して、和船と人とのつながりを紹介していきます。

第1章では、和船とは何か、ということから解説し、その始まり、構造、役割などの展示を通して、和船が人々の生活の中に浸透してきた歴史を解説します。そもそも川船は、海船とは違い、浅く狭い川を通るため、底が浅く幅の狭い造りをしていました。そんな川船の中でも、運ぶ物や航行する川によって、様々な大きさや形の船が存在しました。

第2章では、和船の全盛期であった江戸時代の和船の数々を、模型によって紹介します。当時、高瀬舟や押送船などの和船は人々の物流を支える重要な運搬手段でした。幕府によって、利根川・荒川を使った航路が整備されると、物資を運搬する荷船が川を盛んに行き来するようになりました。また、屋形船や猪牙船など、物流のためだけではなく、観光や娯楽にも用いられる船も多くみられました。

第3章では、現在では失われつつある、和船造船技術について解説します。実際に船を製作している映像をご覧いただきつつ、船造りの工程や使われている大工道具を紹介します。これらの中には船大工ならではのものが多くみられます。

第4章では、和船にまつわる信仰について解説しています。航海安全と疫病除けとして広がった大杉信仰に関する資料や大杉囃子に用いられる演奏楽器、社寺に奉納された船絵馬などを通して船と信仰の繋がりを紹介します。

第5章では、現代にも生きる川船の魅力を、観光・防災・環境という三つの視点から紹介します。特に環境問題という点について言えば、地球温暖化の脅威が叫ばれる近年、船や水路の活用が見直されつつあります。トラックや飛行機などと比べて、CO₂の排出量が格段に少ない船が、エコな乗り物として、また渋滞緩和につながる水行交通が改めて注目されつつあります。

今回の展示により、和船と人とのつながりの歴史を理解していただくとともに、私たちと船や川とのこれからの関係を考える上での、まさしく未来への渡し船となれば幸いです。

(埼玉県立自然の博物館学芸員 五十嵐 咲)



写真1. 高瀬船復元模型 1/30 (江東区中川船番所資料館蔵)



スロープ展示案内

「荒川と船の風景」平成25年特別展サテライト展示

会期：平成25年6月4日(火)～9月29日(日)

平成25年特別展のサテライト展示として、スロープ展示「荒川と川の風景」を開催します。

川と人、そして船は昔から密接な関係にありました。今回のスロープ展示では、主に和船の全盛

期とも言える江戸時代の浮世絵を中心に紹介し、年中行事や風俗などの町人文化の様子を観賞して頂きたいと思います。

(埼玉県立自然の博物館学芸員 五十嵐 咲)

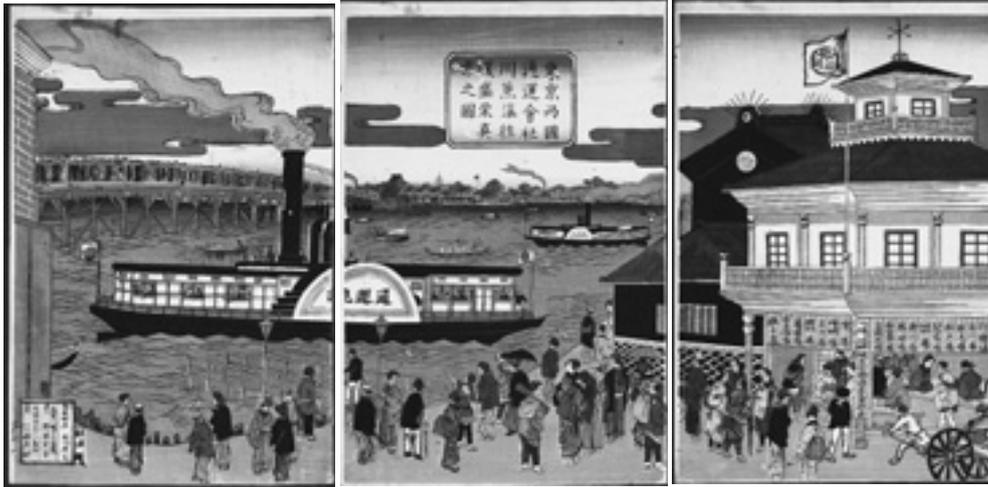


写真2. 浮世絵「東京両国通運会社・川蒸気往復盛栄真景之図」吉野定吉(重清)



写真3. 柳生大杉囃子(加須市)



写真4. 大杉船絵馬(保食神社蔵)

＝関連イベントもあります！＝

☆7月19日(金)～21日(日)

「和船細工ジオラマ解説」

中山幸雄氏を講師に招き、江戸時代の和船や河岸場の様子について100種類以上の和船細工ジオラマを使って展示・解説をします。

☆7月28日(日)

「大杉囃子の実演」(かわはく夏まつりイベント)

①11:30～12:00 ②14:00～14:30

航海安全の神様である大杉神社を起源にもつ大杉囃子を実演・体験するイベントです。

☆8月3日(土)・24日(土)

「船絵馬づくり」

絵馬に船の絵を描いて、船絵馬を作るイベントです。

定員：各回25名 参加費：300円(材料費)

☆8月24日(土)

「埼玉の船絵馬と船大工」講演会

13:30～16:00

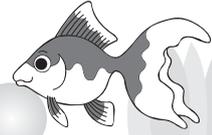
大久根茂氏、内田幸彦氏を講師に招き、埼玉にまつわる船絵馬や船大工についてお話しします。

定員：80名



開催報告

企画展「金魚」を終えて



本展示は3月16日～5月6日までの期間、第二展示室におけるパネル展示と、リバーホールにおける生体展示による構成でした。約2か月の長期間でしたが、金魚が大きく体調を崩すことなく終了できました。展示期間が春休みやゴールデンウィークに含まれていた関係でたくさんのお客さんに見ていただくことができました。

期間中多くの来場者よりアンケートの回答をいただきましたので一部を紹介します。まず、金魚の種類についてですが、「いろいろな種類の金魚がいることを初めて知った」「金魚がたくさん見られてよかった」などの声がありました。また、骨格標本を見て驚かれた方も多く、「外見はかわいらしいのに細かい骨が隠れていることにびっくりした」などの声がありました。さらに、金魚が500年ほど前に中国から輸入されていたことや、金魚にはまだまだ解明されていないことが多いなど、学術的な興味をもたれた方からの声もありました。

今回は特別に埼玉県養殖漁業協同組合の協力で金魚などの観賞魚セリ市の場面を取材させていただき、動画にて紹介する機会を得ました。普段は見られない光景であり、こちらにも興味をもたれた方もいたようです。埼玉県の産業として内水面漁業も紹介しました。代表的なものとして、田ん

ぼを利用した養殖で、食味の良い「ホンモロコ」、埼玉県で品種改良された観賞魚「ヒレナガニシキゴイ」などです。当館レストランと連携してホンモロコの唐揚げを特別メニューとして提供しました。期間中に完売となり関心を持たれている方が多いことを実感しました。

感想で多かったものは「金魚はかわいい」「いろいろな種類があってビックリした」「金魚が見られて良かった」などみなさん展示を楽しんでいたように思います。しかし中には「面白いけど物足りない」「もっと大きい金魚を展示してほしい」など参考になるようなご意見もいただきましたので、これからの展示への参考とさせていただきたいと考えています。展示を見てくださった皆さま、展示にかかわってくださった皆さま、ありがとうございました。

(研究交流部 石井克彦)



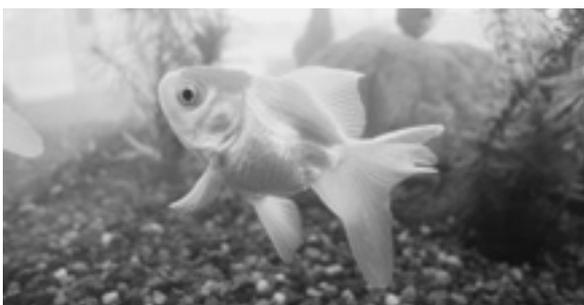
展示解説の風景



ランチュウとヒブナの骨格標本



人気者のピンポンパール



赤いベレー帽、タンチョウ



目玉が面白いチョウテンガン



「地図からみえる世界」開催報告

2013年1月12日（土）～2月3日（日）の期間、企画展「地図からみえる世界」を開催しました。

この企画展では、「地図からみえる〇〇」を各章のテーマとし、地図からみえる様々なことから、いろいろな発見をしてもらおうというコンセプトで展示を行いました。例えば、移りゆく土地利用の変化からは防災の基礎情報や自然環境の変化等が、地形の凸凹の様子からは災害の履歴や危険箇所等が、地図の発展の歴史からは人々の世界観の変化がみえてくることなどを紹介しました。

展示は、『プロローグ』として、日本で初めて実測による日本地図を作成した、伊能忠敬の伊能図から、現在の埼玉県部分をカバーする3点の伊能大図（レプリカ）を展示し、地図の世界へと誘いました。

次に『地図からみえる世界観』では、「古代の地図～地図のはじまり～」として、バビロニアの粘土板の地図やプトレマイオスの世界図を展示。「中世の地図～キリスト教的世界観～」、「近代の地図～大航海時代～」として、外国で描かれた世界地図やアジア図の描かれ方の変遷からみえる、人々の世界観の変化について紹介しました。また、この章の後半部では、日本における地図の歴史を紹介し、江戸の庶民がみていた地図として、「道中図」（実物）や、「寺社参詣図」、「改正日本輿地路程全図」を展示。また、隅田川沿いの「江戸切絵図」とそれに対応する現在の1万分1地形図を並べて、見比べられるように展示しました。

床面には、『地図からみえる 荒川いま・むかし』として、1万分の1スケールで、熊谷市街地から岩淵水門付近までの荒川沿いの範囲をつなげて出力した、迅速測図（明治13～17年測量）と空中写真（平成19,21年撮影）を並べて展示し、さらに上に乗ってじっくり見ることができるようになりました。サイズは、それぞれ約1m×5.4mと大型です。

『地図からみえる凸凹』では、地形の凸凹を一味違った方法で簡単に楽しめる地図をいくつか紹介しました。地形の状況を知ること、防災についても考えていただくコーナーです。「赤青メガネをとおしてみえる凸凹」として、日本近海の海底と関東地方の余色地図を展示し、地形の凸凹の様子から地球の営みがみえてくることを紹介しました。荒川流域（熊谷から岩淵水門付近まで）の

微地形が良くわかる「荒川流域デジタル標高地形図」は、本企画展のために、一般財団法人日本地図センターにオリジナルで作成して頂きました。この地図は、地形と防災について考えるための資料として、今後も当館のイベント等で使用していく予定です。また、アジア航測株式会社による「赤色立体地図」は3点展示し、特に「秩父盆地とその周辺」は本企画展のためにオリジナルで作成して頂きました。立正大学地球圏探究サークルの学生が、地形図を元に作成した地形模型「立体地形図」は4点展示。また、埼玉県の等高段彩図を元に押し花で表現された地図は、本企画展のために、田中敬子氏にオリジナルで制作して頂きました。

このほかに、『いろいろな表現の地図』コーナーでは、図法の異なる世界地図などとともに、視覚障害者のための点字地図「触地図」を展示。本企画展のために、国土地理院にオリジナルで寄居駅～かわはく周辺の触地図を作成して頂きました。また『地図とこころ変われば』では、諸外国で作られている様々な地図を展示し、『身近に地図を』のコーナーでは、地図がモチーフとなっているグッズや切手をショップ風に展示しました。

関連イベントは2回行いました。講演会は講師に国土地理院の関口辰夫氏を招き「火山災害・地震災害・水害と地図の役割」を開催。ミュージアムトークは講師に（一財）日本地図センターの津沢正晴氏を招き「デジタル標高地形図ができるまで」と題し、展示室内で実際に地図を目の前にして行いました。

展示やイベントに足を運んで下さったみなさま、ありがとうございました。

（研究交流部 杉内 由佳）



ミュージアムトークの様子



展示室内（右手前が伊能図、床面が迅速測図と空中写真）



かわはくGWまつり開催報告

今年はジャンベ体験が大人気

毎年恒例の「かわはく」ゴールデンウィークまつりを、今年は前半と後半に分け、都合7日間開催しました。天候に恵まれた五月晴れの中、多く来館者がありました。

当館のマスコットキャラクター「カワシロウ」がチビッ子たちをお出迎え、記念撮影会を行いました。(川のことをよく知ろう…でカワシロウです) カワシロウはいつも大人気で、着ぐるみ担当のスタッフも汗だく対応の毎日でしたが、チビッ子たちの笑顔に暑さも気にならなかったようでした。

当館の学芸員による、各人の専門を活かした「学芸員トーク」も人気でした。それぞれが工夫を凝らし、荒川大模型を使っての「荒川の起源のお話」、ヘビやカエルの生体を展示しての「爬虫類・両生類のお話」、かわはく敷地内の植物や昆虫を探索する「自然観察ウォーク」、鉱物標本や模型を使っての「地学や液状化のお話」等々、どの講座も大盛況でした。

事業推進部主催の「オリジナル缶バッジをつくろう！」のコーナーも、持参した子どもたちの記念写真やペットの写真を活用し、完成したバッジを手で大満足の様子でした。その場で描いたイラストが、瞬時にバッジに仕上がる工程に歓声が上がるほど、楽しんでいただけたようでした。

常に人気のある、液体窒素を使っての科学実験や金魚すくい、透明骨格標本展示、全問正解者に景品がもらえるクイズラリー等々、来館者に楽しんでいただくイベントを沢山用意しましたが、やはり多くの来館者を魅了したのは、音楽イベント

でした。

「宝道(たからどう)」によるアフリカの民族楽器の太鼓(ジャンベ)を使ってのセッション「ジャンベを楽しもう！」は、五月の青空の下に轟くジャンベのリズムで、かわはくGWまつりを大いに盛り上げました。ジャンベ演奏、ダンス、噴水広場を駆け回る熱気溢れるパフォーマンスは、かわはく来館者の心を躍らせ、知らずのうちにリズムをとり体を躍動させてしまうほどの感動を与えていました。

来館者向けのジャンベ体験は、子どもたちばかりでなく、大人にも大人気で、体験用に用意した10個のジャンベに順番待ちの列ができるほどでした。プロのドラマーとしても活躍している藤井リーダー扮する映画のキャラクター「ジャック・スパロウ」風のキャプテンも、ツーショット記念撮影に子どもたちや家族連れ、女性陣から声がかかり大活躍でした。

実は宝道ファンの方は地元寄居町にも多く、「今年は呼ばないの?」「GWのいつ来るの?」と問い合わせを何度もいただきました。

毎年、試行錯誤の「かわはくまつり」ですが、派手さはなかったものの、学芸員トークのコーナーは毎回盛況で、知りたい・学びたい意欲を持たれる来館者の多さに驚かされました。

今後も、地域との繋がりを大切に「かわはくまつり」を、更に楽しく・ためになるお祭りイベントとして工夫してゆきたいと思います。

(事業推進部 萩原幸仁)



ジャック・スパロウ?



「宝道」によるジャンベ体験



コラム 「街角珍百景～ちょっと変わった県境～」

下の写真を見てください。水田の中を流れる用水路が、Yの字に交わっています。用水路が交わっている場所は、水田が広がっている場所では比較的好く見かける光景ですが、この写真の場所はちょっと、イヤイヤだいたい変わった場所です。

実はこの場所、埼玉県と群馬県と栃木県の県境で、Y字路になっている場所は、まさに三つの県の県境になっています。

県境は多くの場合、大きな河川（例えば埼玉県と東京都の場合は荒川）や、山（例えば荒川の源流点でもある甲武信岳は、埼玉、山梨、長野の三つの県の県境）などで決められています。

なぜこのような用水路が交わっている場所が県境になっているのでしょうか？これには「水害」や「河川改修」が大きく関係しています。写真の場所は埼玉県加須市（旧北川辺町）で、昔から利根川や渡良瀬川等の河川が氾濫を繰り返してきた場所で、たびたび河川の流路が変わった場所でした。さらに、近代に入ってから渡良瀬遊水池の整備も河川の流路に大きな影響を与えました。当然渡良瀬川の河川改修の影響も受けています。

このような一連の経緯の中で、この一見変わった県境が誕生したのです。

「水害」や「河川改修」が、町の境界に影響を与えている例は、埼玉県内では比較的多く見られます。例えば、さいたま市と川越市、富士見市の市境は荒川ではなく、「びん沼」になっていますが、

これは明治43年の大洪水の後の、荒川の河川改修の影響のためです（現在の「びん沼」は荒川の旧河道）。

他にも、「川幅日本一」で有名な鴻巣市と吉見町の市境は、ちょうどこの「川幅日本一」の真ん中辺りに定められていますが、この市境も実は荒川の現在の河道ではなく、荒川の旧河道が市境になっています。

今回は、ちょっと変わった県境や市境についてお話してきましたが、もしかすると皆さんの住まいの地域でもこのようなちょっと変わった場所に遭遇することがあるかもしれません。「あれ、何で？」と疑問に感じたら、ぜひその町の歴史を調べてみてください。そこにはあっと驚くような意外な真実が隠れているかもしれませんよ。

（研究交流部 羽田 武朗）



●水田の中の用水路のY字路。実はこの場所は？
（埼玉県加須市小野袋）

館長のつぶやき

ブータンの話

秋のスロー展を「アジアの川の源流ヒマラヤ・ブータン～その自然と人々の暮らし～（仮称）」にしたので、ブータン研究会に久しぶりに出席した。ブータンでは、25カ所の氷河湖決壊が、大問題になっており、国外に向け大々的に発信している。それにたいして、JICA支援のプロジェクト研究が立ち上げられたそうだ、今回はその報告であった。ブータン、ネパールの氷河は縮退の方向であるが、西ヒマラヤではむしろ氷河が発達していることや、決壊の危険性があるのは、25カ所の内2カ所であるなど以外と決壊しないし地球規模で見るとかならずしも一様に自然現象が起きているわけではないことなど、妙に納得した。質疑応答では、昔からの洪水についての言い伝えの情報を収集し解析したかが問題となった。3.11以降、過去の津波の情報を得るのに、古文書や言い伝えなど今まであまり注意を払わなかった方面からのアプローチが取り上げられ、多角的に考察を加えるようになったので、一般にもその考え方が浸透しているようだ。紹介されたスライドのなかで、ポ・チューの1994年の小規模な氷河湖決壊による洪水による濁流の写真があり、きれいなプナカゾンとの対比が印象的だった。

（館長 平山良治）



プナカゾン、右がポ・チュー（父川の意）、
左がモ・チュー（母川の意）

8月

7/13/土~9/1/日

特別展「和船大図鑑」

かわはくであそぼう・まなぼう
水の日記念イベント「利き水体験」

時間：10：00~12：00 13：00~15：00
費用：無料

内容：利き水等をしながら、水の性質や大切さを学びます。

3/土 特別展開連イベント「船絵馬づくり」①

時間：9：30~12：30 13：30~15：30

費用：300円

定員：各回25名 ☎

内容：絵馬に船の絵を描いて、船絵馬を作ります。

4/日 特別展開連イベント「荒川ゼミナール青空教室「和船体験」

時間：10：00~12：00 13：30~16：30（予定）

講師：和船友の会

費用：300円（保険料・入館料）☎

内容：横十間川で和船（網船）に体験乗船し、その後周辺を散策します。

17/土 かわサタ自然教室「シラスの中のチリモンさがし」

時間：13：30~15：30

費用：100円（材料費）

定員：20名 ☎

内容：シラスの中に混ざっているいろいろな生きもの（カニやイカなど）を探します。

22/木 川に親しむ教室「伝統漁法体験」

時間：10：30~12：00 14：00~15：30

費用：500円（保険料）

定員：各回40名 ☎

内容：荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

24/土 特別展開連講演会「埼玉の船絵馬」

時間：13：30~16：00

講師：大久根茂氏（埼玉県立自然の博物館）、内田幸彦氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

費用：無料 定員：80名 ☎

特別展開連イベント「船絵馬づくり」②

時間：10：00~12：00

費用：300円

定員：各回25名 ☎

内容：絵馬に船の絵を描いて、船絵馬を作ります。

10月

6/日

かわはくであそぼう・まなぼう「押し花でカードづくり」

時間：13：30~15：30

費用：無料

内容：好きな葉っぱを使って押し葉のカードを作ります。

13/日 荒川ゼミナール・青空教室「びん沼を歩く」

講師：久保純子氏（早稲田大学教授）

時間：9：45~17：00（予定）

集合・解散：JR川越線南古谷駅集合、東武東上線志木駅解散

費用：200円（保険料+施設入場料）

定員：20名 ☎

内容：昔の荒川の跡である「びん沼」と荒川の氾濫低地の地形を歩いて見学します。

26/土 かわサタ自然教室「草花でハンカチ染め」

時間：13：30~15：30

費用：100円（材料費）

定員：20名 ☎

内容：かわはく周辺にある草花を使って、ハンカチを染めます。

27/日 企画展開連イベント「大人の社会科見学① 秩父の水と産業」

時間：9：30~16：00

集合：西武秩父駅・秩父鉄道御花畑駅（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：ウォーキングをしながら、各種生産業に利用されている水スポット（造り酒屋など）を巡り見学します。

9月

9/21/土~11/24/日

平成25年度企画展「荒川の水のゆくえ〜埼玉の水と産業〜」

7/土

かわサタ自然教室「葉脈標本をつくろう」

時間：13：30~15：30

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：葉っぱのお話をしながら、葉脈だけを残した葉脈標本づくりをします。

15/日 かわはくであそぼう・まなぼう「お月見体験・月よりダンゴ」

時間：13：30~15：30

費用：無料

内容：かわはく周辺に伝わるお月見の風習の体験をします。

28/土 川に親しむ教室「砂金採り教室」

時間：10：00~12：00

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：かつては砂金が多く採れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。

11月

3/日

荒川ゼミナール・青空教室「川幅日本一を歩こう」

時間：10：00~16：00（予定）

集合：JR高崎線鴻巣駅（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：荒川流域を歩くイベントとして、今年度は川幅日本一の踏破に挑戦します。

8/金 企画展開連イベント「大人の社会科見学② 浄水施設等見学会」

時間：9：00~16：00

集合：JR浦和駅（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：大久保浄水場の見学後、ウォーキングをしながら昔の川の跡や大宮台地の地形を見学します。

10/日 荒川ゼミナール「街道はどこを通るのか〜旧中山道と荒川の河川地形の関係を語る〜」

講師：熊原康博氏（群馬大学准教授）

時間：13：30~15：00（予定）

費用：無料

定員：60名 ☎

内容：旧中山道における地形と荒川との関係の講演です。また講演中に色鉛筆等を使用したワークショップも予定しています。

14/木 かわはく秋まつり

時間：10：00~16：00

内容：一日たのしく遊べるイベントを実施します。

かわはくであそぼう・まなぼう「木の実遊び」

時間：10：00~12：00 13：00~15：00

費用：無料

内容：どんぐりコマやヤジロベエづくりを体験します。

23/土 かわサタ自然教室「河原の石図鑑づくり」

時間：13：30~15：30

費用：200円（材料費+保険料）

定員：20名 ☎

内容：かわせみ河原で小石をひろい、石の実物図鑑をつくります。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



2013年7月10日発行

